



**ほのぼの苑**  
相談受付 8時30分～17時30分  
 018-877-7115

#### ■アクセス

秋田県潟上市昭和大久保字街道下92番地1

奥羽本線「大久保駅」から徒歩10分

エリア内に小玉医院、南秋田整形外科、南秋田眼科、おおくぼ歯科診療所、地域密着型特養 あかひげ、グループホーム まめだすか、潟上市生活支援ハウス、無料定額宿泊所 月星・フレディ、保育園てんぷすがあります



ホームページ

メールからも  
ご相談いただけます

**南秋田在宅総合ケアセンター**  
在宅での介護にお悩みの方、介護保険サービスのご利用をお考えの方は、お気軽にご相談ください

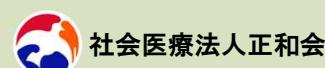
018-877-7288



## 介護老人保健施設

# ほのぼの苑

ほのぼの苑は、利用者一人ひとりの状態や目標にあわせて医療・看護・介護からリハビリテーション、さらには栄養管理などのサービスを総合的に提供し、ご利用者本人・ご家族が安心した施設および在宅の生活を続けられるように支援する介護保険で利用できる施設です。



# 介護老人保健施設の理念と役割

1

## 包括的ケアサービス施設

利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活を送ることができるよう利用者に応じた目標と支援計画を立て、医学的な管理のもと、看護や介護、リハビリテーションを提供します。

3

## 在宅復帰施設

利用者ひとり一人の状態像に応じて、多職種からなるチームケアを行い早期の在宅復帰に努めます。

5

## 地域に根差した施設

家族や地域住民と交流しさまなケアの相談に対応します。市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域一体となったケアを積極的に担い、サービス向上に努めます。

2

## リハビリテーション施設

体力向上や動作能力の獲得、家庭環境の調整など生活機能の向上を目的に、集中的なリハビリテーションを行います。

4

## 在宅生活支援施設

自立した在宅生活が継続できるよう、入所や通所・訪問リハビリテーションなどのサービスを提供するとともに、他サービス機関と連携して家族の介護負担の軽減に努めます。

引用元:全国老人保健施設協会

ご本人が「出来るようになりたいこと」、「こうなって欲しい」というご家族の希望をうかがいながら目標を設定し、専門的なケアから食事、入浴など日常サービスを提供します。



# サービス内容

## 食事

管理栄養士が栄養管理を考えた献立により、ご利用者の身体状況に配慮した食形態の食事を提供します。  
朝食 7時30分、昼食 12時、夕食 17時

## 入浴

入所・ショートステイは週2回の入浴を行います。一般浴のほか車椅子やストレッチャーのまま入れる特殊浴槽でのご本人の状態に合わせた入浴が可能です。

## 医療

入所は施設長(医師)による診察日を設けて健康管理を行います。看護師が24時間常駐しており、併設医療機関(小玉医院)と連携をして医療対応が可能ですので、安心して過ごすことができます。

## 介護

本人が出来ることを尊重し自立を妨げない、出来る限り離床に努めるなど心身の状況に応じて適切な介護を行います。

## リハビリ

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が在籍しており、状態に合わせ、歩行や嚥下のリハビリ、寝たきりの方も拘縮予防のリハビリを週2回行います。

## 栄養管理

管理栄養士が栄養状態の把握、食事の観察(ミールラウンド)を行い、食事の調整を含めて栄養ケア計画を立案して、適切な栄養管理を行います。

## 口腔衛生

法人内歯科医師の指示を受けた歯科衛生士が口腔衛生の管理と介護職員へ助言及び指導を行い、適切な口腔内環境を保ちます。

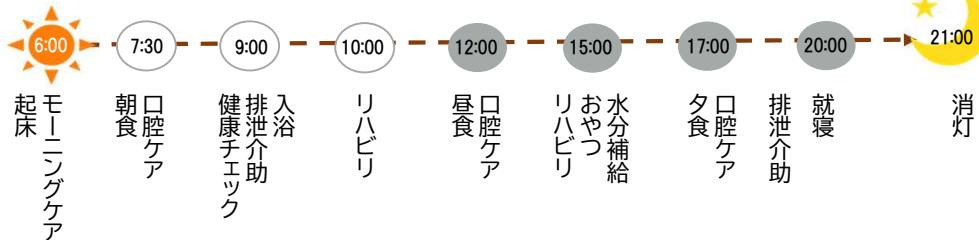
## 面会

感染症予防のため面会等は予約制となります。感染状況により変動しますので事前にお問い合わせください。

## 協力医療機関

小玉医院、南秋田整形外科医院、南秋田眼科医院  
秋田厚生医療センター、湖東厚生病院、おおくぼ歯科診療所

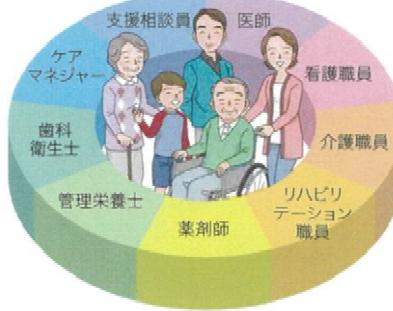
# 1日の流れ



# ほのぼの苑だからできること

老健施設には医師・看護・介護をはじめ、リハビリテーション、管理栄養士、歯科衛生士といった多くの職種が配置されております。

日常のケアは在宅での生活をイメージし、身の回りのことは自分自身でできるよう、**多職種協働で自立支援**に向けた介護サービスの提供を心掛けています。



## 「自分らしい生活」をお手伝いします



「今できること」だけではなく、「工夫すればできること」を好きなこと、興味関心、その方にとって意味のある作業など、充足感が得られる個別のプランを提供いたします。

また、ご自宅とほのぼの苑を行き来をしながら、「最期の場所を施設で」という選択も可能です。治療ではなく、その方にとっての穏やかな時間を最期までお手伝いいたします。

## 美味しい、嬉しい、楽しい、へるしい

管理栄養士による栄養管理も、まずはおいしく食べていただくところから始まります。私たちは利用者の食欲が増して健康な体づくりを促進できるよう、行事食やデザートバイキングを開催し、楽しみを感じながらお食事いただけるよう取り組んでいます。また嚥下機能に配慮した食事やとろみ調整機の導入、ご家庭でも嚥下食を提供できるように配食サービスも行っております。入所されている方、ご自宅で過ごされる方の健康支援に繋がるよう栄養サポートチーム(NST)が総合的な支援に取り組んでいます。



行事食・デザートバイキング



配食サービス



とろみ調整機

## 入所 短期入所

施設に泊まる

入所定員 100名(短期入所は空床利用)

要介護1以上(短期入所は要支援1以上)の方が対象です。

病院から自宅に退院するにはまだ不安があるときや、自宅での生活動作が不安定になってきた場合などに利用できます。

こんな時も利用できます

- ・退院後も定期的なりハビリを継続したい
- ・医療的処置が必要で在宅生活に不安(経鼻栄養管理、吸引など)
- ・家族が介護に疲れてしまったので休息したい
- ・家族が冠婚葬祭や旅行で介護ができない

【受け入れについて】 ○受入れ可 △まずはご相談ください

|        |   |           |   |        |   |             |   |
|--------|---|-----------|---|--------|---|-------------|---|
| 胃ろう    | ○ | 経鼻栄養      | ○ | 在宅酸素療法 | △ | 自傷・他害のある認知症 | △ |
| インシュリン | ○ | 痰吸引       | ○ | 抗がん剤使用 | △ | 人工呼吸器       | × |
| ストーマケア | ○ | バルーンカテーテル | ○ | 中心静脈栄養 | △ | 人工透析        | × |

## 通所リハビリテーション

施設に通う

通所定員 50名

要支援1以上の方が対象です。

日中、施設に通って、健康チェック・介護・入浴・リハビリテーション等のサービスを受けることができます。車椅子のままで入れる浴槽があります。基本的に9:00～16:00まで送迎も行いますが、1～2時間程度の短時間利用も可能です。

こんな時も利用できます

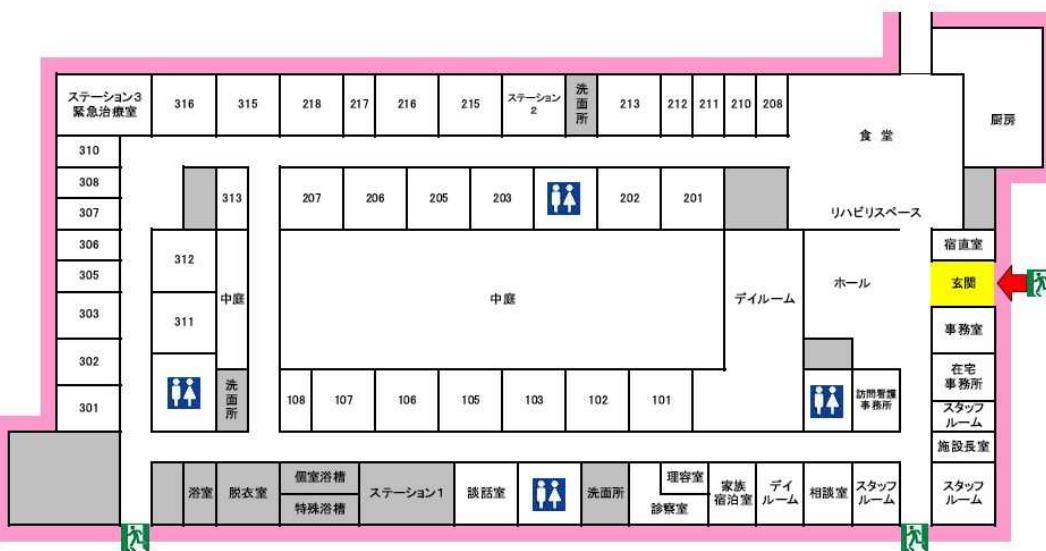
- ・寝て過ごす事が増えて足腰が弱った
- ・お風呂に入るのが大変になってきた

## 訪問リハビリテーション

自宅に訪問

要支援1以上の方が対象です。

ご自宅にリハビリ職員がお伺いしてご自宅の生活にあった生活動作や嚥下訓練などのリハビリテーションを行います。



#### ■施設概要

建物構造:鉄骨造1階建て  
延床面積:4,056m<sup>2</sup>  
定員:100名  
療養室:個室 10室 2人部屋 5室  
4人部屋 20室

#### ■設備

- 家族宿泊室
- 食堂
- 談話室
- 一般浴室
- 特別浴室
- デイケアルーム
- 薬局診察室
- リハビリルーム
- 緊急治療室
- 理美容室

※1周すると210mになる廊下は、普段の生活のなかで歩くだけでも十分な運動量となり、歩行リハビリとして活用することで、全身の持久力向上が期待できます。

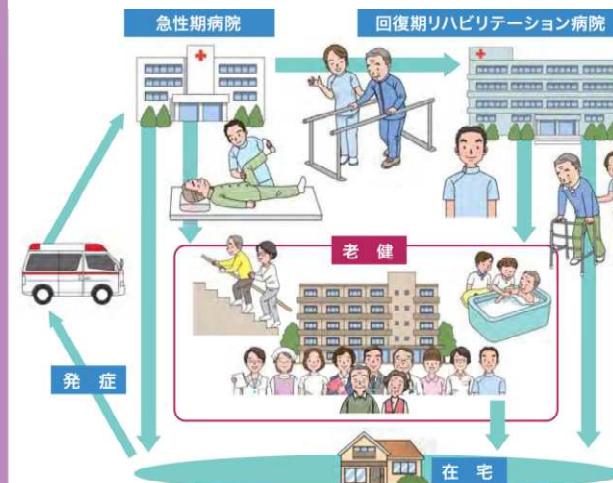
## 最新のテクノロジーを取り入れています

見守りセンサーシステムを導入し、ベッドからの立ち上がりによる転倒や転落の可能性が高い方の異変を素早く検知できるよう努めています。  
また、電子介護記録システムの導入により、職員の記録に係る時間が短縮したことからケアに専念する時間が増えて、ケア内容の確認や定期的な見直しも行うことで、より細やかなサービスの提供ができる環境を整えております。

## 老健はさまざまな活用が可能です

老健は住み慣れた地域で暮らし続けるために、多様なサポート体制を整えております。ご利用者の多種多様なニーズに各専門職が応えながら、施設サービスを行い、身体状況の改善を目標としています。在宅復帰後は、地域のケアマネジャーと連携しながら在宅支援を行って行きます。

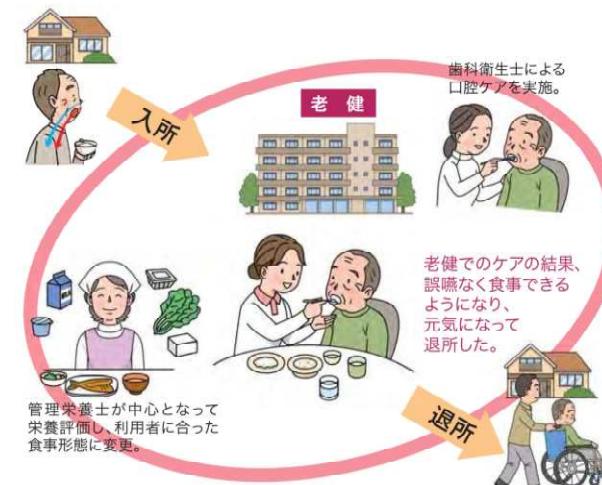
### 脳卒中を発症後、急性期病院から老健へ



Aさんは脳卒中を発症し、急性期病院へ運ばれました。病院で集中治療を終え、早期にリハビリテーションを開始しました。しかし、病状は安定するも右半身に後遺症があり、在宅で介護は難しい状況でした。そこで、在宅生活をする上で必要なリハビリテーションを行うため、老健に入所することになりました。

入所後は、順調に機能回復し、在宅に戻り、地域の介護サービスを利用しながら在宅生活を送ることができました。

### 在宅で経口摂取が困難となり、老健を利用



90歳のDさんは、最近、食事摂取に時間がかかり、誤嚥も目立つようになったと訪問担当者からの報告がありました。担当のケアマネジャーも食事形態や栄養面にも不安があり、ご家族に老健への入所を勧め、入所することになりました。

入所後は、管理栄養士が中心となり、栄養評価を行い、Dさんに合った食事形態に変更し、併せて歯科衛生士による口腔ケアも行いました。その後は、誤嚥もなく食事を摂取ができるようになりました、退所することができました。